

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101199		
法人名	医療法人社団 清宮医院		
事業所名	グループホーム 山王の家		
所在地	群馬県前橋市山王町133		
自己評価作成日	平成22年6月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://toroku.kaigo-joho.pref.gunma.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13番地12		
訪問調査日	平成22年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年2回家族交流会を行っており、ご利用者様・ご家族様・職員が楽しめるひと時を設けている。主治医の他、皮膚科医・歯科医の往診治療も行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人が病院、老人保健施設を持ち、ホームとも連携して取り組んでいるため、利用者は2週間に一度の往診や皮膚科、歯科の受診も併設施設へ出向いて受診することができ、医療面での利便性が高い。また、現在年に2回開催している家族交流会は参加家族も多く、日頃かかわりの持てない利用者とその家族と一緒に食事をつくり、食べる時間を共有することで好評を得ており、今後も回数や企画を増やしていきたいと考えている。さらに利用者がそれぞれ集中して取り組めるものを提供したいとの考えから、だるまの絵付け体験や習字、紙の制作物等の手先を使った制作を実施しており、さらに個別に得意なこと、好きなことも加味して生活に張りが出るその人にあった楽しみごとが提供できるよう支援していきたいと考えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人としての尊厳を尊重し、安心して生活できる事を地域の方々と支援する事を理念とし、玄関とタイムカードの所に理念を貼付し、出勤時は一読する。処遇も理念に沿うようにしている。	開設当初から「人としての尊厳を尊重し、安心して生活できる事を地域の方々と支援する」と理念を掲げ、管理者は新規採用職員研修や毎月の職員会議で理念に基づいた処遇の重要性を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所より出勤の職員もおり、顔見知りで挨拶や話し掛けも積極的に行う。近所の小学校の行事(運動会・ふれあい祭り等)に招待受け、参加させて頂いている。	周辺に住宅が少ないながらも散歩の際に住民の方々に挨拶をする等から、お互い顔見知りの関係になりつつある。また、近隣のボランティア(会話、カラオケ)が数名おり、ホームの防災協力員になったりと交流をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は特に取組んでいないが、私達にできる事はないか考えていきたい。牛乳パック・プラトップ等を集めて資源ごみとして回収している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に上がり、課題となった事は次回の会議までに取組み、その結果を報告している。会議報告はご家族様の他、どなたでも閲覧できる様、玄関掲示板に貼付してある。	2ヶ月に一度会議が開かれ、ホームの近況や今後の予定等を報告している。また、意見交換では住民代表でありホームの防災協力員の独自の事務報告の実施や外出場所の情報提供などサービス向上につながる発言をもらい、活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	些細な事でも分からない事は電話で伺い、ご指導頂き、お世話になっている。	介護保険におけるグループホームの人員基準についてや、インフルエンザ流行時の行政の方針等、些細なことでも連絡、確認し、協力体制を取りながらサービス提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束が必要と思われる方はおらず、万が一、必要と思われる場合でも看護部長へ相談等、拘束は行わない様にしている。電子ロックの扉もあるが、職員が見守りをしているので、普段は施錠せず。	身体拘束に関しての資料も職員の目につく場所に掲示し、意識向上に努めている。以前は玄関と居間兼食堂の間にあるドアが自動的に閉まる電子ロックであったが、職員の見守りや観察により日中はロックを解除し、外部からも自由に出入りできるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待はないが、処遇については施設全体で向上を図っているため、常に意識している。人個人としての問題(良心・介護者としてのプライド等)もあるので、さらに意識を高めたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加させて頂き、必要な時は活用できる様、備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	老人保健施設の責任者からも説明し、理解、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様・ご家族様等のお気持ちを伺う機会を持つようにし、職員もお気持ちを察するようにしている。ご利用者様は老健の職員に接する機会も度々あり、ご意見等をお話頂ける機会はある。	利用者から、食事内容や入浴の順番について等折にふれ意見を聞いている。また、家族から、面会時や家族交流会の際に相手の気持ちを配慮しつつ意見をきいている。玄関先に「ご意見カード」を用意し、意見を受け入れる体制を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中や会議の場でも意見を発言し、話合っている。	月に一度職員会議を開き、利用者の変化や職員体制、処遇時間の変更など様々な意見を出し合っている。その中から現在のホーム状況に合う意見を採用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時々、様子を見に来る等、状況を把握している。また、資格取得への配慮もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に様々な研修の案内をし、必要な研修に参加する機会を設けている。研修後は復命書を提出する。老健と合同で研修を兼ねた会議を年2回行っており、その際、復命書を発表する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設へのレベルアップ研修に参加させて頂き、とても勉強になっている。その後、相手方の管理者に分からない事を電話にて質問させて頂く等、交流させて頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	GH以外に山王ライフ全体として代表者や看護部長も相談を受け対応する。老健より入所時はサマリーその他、その部署からの情報を得、介護に反映する。不安がある時は一緒に過ごす時間を増やし、訴えを拝聴し安心頂けるまで時を過ごす。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とはゆっくり話をしながら契約を交わし、ご希望等を伺う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく、山王ライフ全体としてサービスを提供している。サマリーを十分に受止め、ご本人様・ご家族様とご相談しながら対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の遊び唄や知らないことわざを教えて頂いたり、昔の暮らしについて話したり一緒に過ごしながらかご本人様より学び、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時に最近のご様子をご報告し、ご本人様にとって良い状態であるよう、一緒に考えている。ご面会の時間によってはレクリエーションにご参加して頂いて、一緒に楽しむようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、知人の方の訪問があるご利用者様がいらっしゃる。外出の際は馴染みの場所を通る事もある。	外出時は自宅の前を通ったり、希望があれば年賀状や手紙を郵送する支援を行っている。入居時や面会時に、それまでの暮らしや関係を伺っているが、それまでの関係性が途切れない支援を積極的には行っていない。	一人ひとりの利用者のそれまでの暮らしや人、場所との関係性を深く掘り下げ、かかわりを持つことで発展する利用者の社会性等を意識してつながる支援を展開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席を配慮し、調理レクにて一緒に食事を作る事もある。気の合うご利用者様同士、各居室を行来する事やホールにお一人だけの際は他の方を誘う等、職員はご利用者様のご様子に常に気を配って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればサービス利用終了後のフォロー、ご相談等、ご支援も対応したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけご本人様の意向に沿える様、努めている。また、ご行動からご要望を見つけている。	言葉で表現できない方、認知症状の重度な方の表情や全体印象を重視し、普段の生活の中の関わりから、事前の情報収集では捉えられない利用者のニーズを掴み、希望や意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や日常会話の中から情報を得、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りにて全職員が情報を得、ご利用者様の現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議は全職員が参加し、意見交換を行う。計画はご本人様・ご家族様の意向、PT・OT、主治医・看護師等の意見を取入れて作成している。計画書ができたならご家族様に確認して頂き、了解を得ている。	月に一度の職員会議で利用者の情報交換を行い、その情報や理学療法士、作業療法士、主治医、家族等の意見を含めてケアマネジャーが立案している。また、計画内容のモニタリングは1ヶ月に一度行い、3ヶ月に一度は計画の立て直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、変化があった場合はその様子を、なかった場合はなかった事を口頭でも申し送りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健のリハビリ室をサービスで使用させて頂く、リフト車を借りて全員で外出する、さわやか健診に2名づつドライブを兼ねて清宮医院まで出掛ける等、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老健と併設の為、一緒に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診は月2回行われており、ご希望があれば掛かり付け医への通院もご支援させて頂いている。	医師である法人理事長をかかりつけ医として月に2回の往診を受ける利用者もいれば、入居前からかわりのある医療機関を受診される方もいる。歯科医、皮膚科医の診察が同敷地内の老人保健施設で実施されており、同行介助もしている。他の医療機関受診の際は通院介助も行い、サマリーの持参を徹底しており、受診内容についても個人記録、申し送り簿への記録で周知徹底を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健の特定の看護師に日常的に関わって頂いている。また、同施設の他の看護師にも医療処置を依頼する事も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご高齢の方も多いため、状態の変化の都度ご家族様と連絡をとり、時には看護部長も交え、話合うようにし、統一した対応をとるようにしている。	利用者の心身状態が重度化した場合でも、できる限りホームで対応できるよう家族と相談し、支援している。医療行為が常時必要になった際は、法人の老人保健施設や医療機関へ移ってもらうことを入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については随時話し合い、マニュアルに従って行動する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	山王ライフと合同で年2回避難訓練を実施している。また、地域の方々に防災協力員をご依頼している。	法人の老人保健施設と合同で日中及び夜間想定で避難訓練を実施しているが、ホーム職員からの参加は1名で、訓練の反省点を報告するのみである。また、不定期に緊急連絡装置を確認しているが、職員が確実に使用できるような対策や防災協力員が実際加わって行う訓練は実施されていない。	ホーム職員全員が参加できる独自の避難訓練や緊急時に想定される注意点を話し合い、防災協力員とも連携して災害対策がなされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご面会者の氏名は他の方に知られない様になっている。個人情報事務室に保管している。お言葉掛けも意識した対応をしている。	個人記録は、事務室で管理している。また面会者の記録も一枚ずつのカード形式の用紙に記入してもらい、他の面会者の目にふれないようになっている。利用者に対しては特に持病や認知症についてあからさまに話すことはせず、そのような内容は一対一で話すよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事ではご入浴の順番・おやつ・レクの内容等、ご希望を伺う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個々のペースに合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着て頂いたり、出張理美容サービスをご希望に合わせてご利用頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなメニューを伺ったり、ご用意やお片付けを手伝って頂く事もある。調理レクにてご自分の分を作ったりされ、楽しめる様にしている。	献立は法人の栄養士によって作られるが、利用者の好みや食材によって臨機応変に変化をつけている。また、野菜の皮むきや下ごしらえを手伝っていただき、毎食職員と利用者が一緒に食べるようにしている。時には利用者とホットプレートを使って作る(お好み焼き、ホットケーキ)機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し、一日を通じて必要量が摂れる様対応している。水分補給には気を付ける様にしている。お粥・キザミ食・量等、ご利用者様個々の状態に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お声掛けをし、必要に応じて介助もを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し、個々の状態に応じて対応している。排尿量が少ない場合は水分摂取を促している。	認知症で排泄が自立できていない利用者にはその方が落ち着きをなくす等行動様式を観察し、排尿パターンを掴む努力をしている。また、排泄は自立しているが下肢筋力が低下している利用者には、夜間はポータブルトイレを使用してもらう等その方の能力と安全確保した支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便の有無を確認し、必要に応じて下剤を使用するが、水分摂取や運動の促しもしている。食事は毎回野菜類をとり入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は概ね決まっているが、ご希望の順番を伺ったり、拒否が強い時は無理強ひせず翌日にする事もある。	入浴は概ね午前中の時間帯だが、毎日入ることができる。3日に一度は入浴できるよう勧めているが、拒否が強い時には時間や日を変えて入っていただくよう支援している。時には入浴剤を使い一人ひとりでゆっくり入っていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状態やご希望に合わせてお休み頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類が変更になった場合等、申し送りノートに記入し、全員が情報を共有している。個人のカルテ裏表紙に薬の説明書も挟んであり、すぐ確認できる様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを日課にしている方がいらっしやるので、お願いしている。車イスを押して頂く等、小さな事でも何かをして頂いたら、お礼を言わせて頂く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回程度は全員での車外出をしている。天気の良い日は、近所を散歩に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持されている方はおらずご希望もないが、あればご支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望は殆どないが、あればご支援したい。ご家族様にお言伝がある時は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ご利用者様の作品を飾ったりし、居心地が良い様に工夫している。	居間兼食堂は窓が大きく明るい印象で、テレビ・ソファが置かれ、季節の花や利用者の作品が飾られ家庭的なくつろげる空間となっている。壁には絵画や利用者の行事の写真が飾られ、広い廊下には所々にイスが設置してあり、廊下からトイレ・浴室に手すり取り付けられ居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下等にソファやイスが設置してあり、好きな様にご利用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に馴染みのイスや人形等ご持参頂いて、好きな様にご利用頂いている。	居室には備え付けの整理たんす・ベッドがあり、趣味の書道道具や楽器・愛用のパソコンやイス・時計が置かれ壁には自分の作品やカレンダー、写真が飾られ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名札を付け、ご自分の居室と分かり易い様になっている。建物内部はバリアフリー構造となっている。		